



主題・スローガン

- 西宮クラブ会長 「楽しく充実した活動」 浅野純一
- Yサ・ユース 「次世代に向けてYワイズ・YYMCA・Yユースが相互に、
事業主査 Wウィン・Wウィン・Wウィンで立場持ち場を越えて支え合おう」 小野勅紘
- 六甲部部长 「YMCA とのさらなる協働を目指して」 井出 浩
- 西日本区理事 「未来に灯そう希望の光り」
「互いに認め合おう 世界の友と」 深谷 聡
- アジア会長 「変革のための光となろう」
「親睦を通して、輝き、力を得よう」 利根川恵子
- 国際会長 「輝かそう、あなたの光を」 ウルリック・ラウリドセン
「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

2023年
7月
903号
(77期1号)



7月 西日本区強調活動 Kick-off Public Relations

新たな期のスタートです。みなさんのワイズ活動をアピールしましょう。部へ、区へ、家族へ、仲間へ、世界に向けて。ツールを活用しよう。

荒川恭次 広報・情報委員長 (名古屋グランパス)

西宮ワイズメンズクラブ 2023年7月第一例会

日時：7月14日(金) 19:00~20:30
場所：西宮 YMCA3階会議室
ドライバー：阪根新メン、岡田佑一郎メン

- 1. 開会挨拶・点鐘 濱直前会長
- 2. ワイズソング 一同
- 3. 今月の聖句 小野メン
- 4. 会長引継ぎ式 司式 阪根メン
新役員の紹介 浅野会長
- 5. 今期活動方針と年間計画 浅野会長
- 6. 前期会計決算 濱崎会計・重村会計
- 7. 誕生日のお祝い
- 8. ワイズニュース 浅野会長
- 9. YMCA ニュース 森川担当主事
- 10. 閉会点鐘 浅野会長
※食事なし。

HAPPY BIRTHDAY / JULY

- 8日 岩田成子メネット
- 16日 濱崎保津美メネット
- 20日 藤原百合子メン

今月の聖句

イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられた。シモンと呼ばれるペテロとアンデレの兄弟が網を打って漁をしていた。イエスが「人間を取る漁師にしてあげよう」と言われた。二人の漁師は網を捨ててイエスに従った。
マタイによる福音書4章18節20節
小野勅紘選

6月出席状況 (在籍会員数 21名)

第一例会 (16金)	第二例会 (23金)
メン 15名	メン 13名
メネット 0名	メネット 0名
ゲスト 0名	ゲスト 0名
MU 0名	計 13名
合計 15名	出席率 71.4%

ファンド	6月	累計
ニコニコ	¥2,000	¥27,000
BF	¥5,000	¥41,345

会長 浅野 純一 直前会長 濱 浩一 副会長(次期会長) 濱崎 進一 副会長 足立 康幸
書記 山口 吉郎, 小野 勅紘 会計 濱崎 進一, 重村 仁 監事 阪根 新, 丸山 悦治 担当主事 森川 俊介
Yサユース事業主査 小野 勅紘 組織検討安全対策委員 山口 吉郎 次期六甲部長 小野 勅紘

会長メッセージ

会長 浅野 純一

23-24年度のクラブ会長を務めることになりました。会長主題には「楽しく充実した活動」と掲げました。とにかく皆さんが楽しく過ごせるようなクラブにしたいと思います。楽しいことは人それぞれ様々ですが、共通するのはメンバー間の交流です。とりわけワイズでは、クラブでの枠を超えて、六甲部、DBCのクラブ、それに全国のクラブの方々との交流です。また異なる業種で働かれる方々と交流できることは何にも増して楽しく意義あることです。できれば年齢の異なる方々ともっとお付き合いできればと思うのですが。



クラブでの大きな課題は改めていうまでもありませんが、メンバーの高齢化です。ワイズメンズクラブの理念・伝統を大切にしながらですが、しかしできることを選んでいかなければならないと思います。

古代ギリシアの哲学者ソクラテス(前 407?~前 399)は、アテネの青年に向かって「だれもが魂ができるだけすぐれたものになるように気を遣うべきであって それよりも先に身体や金銭のことを気にしてはならない」(プラトン著『ソクラテスの弁明』)と説教しました。私には印象に残った哲人のことばですが、今年11月に後期高齢者になる私は、健康のことを最も気にするようになり、今後たとえ生き続けていくことができたとしても金銭のことは大丈夫なのかが、現在の私には最も重要なことになっています。かつて高校教師として「倫理・社会」で熱心に先のことばを生徒に話したことを恥じなければなりません。

私はワイズメンズクラブに入って約15年になります。会長は3度目です。クラブ会長としてできることは少ないのですが、今年1年、与えられた務めを前向きにとらえて皆様と共に活動していきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひいたします。

6月例会報告

山口 吉郎

とき：2023年6月16日(金) 19:00~20:00

ところ：西宮YMCA3階会議室

ドライバー：岩田メン(司会)、馬場貴英メン

今期最終の6月例会は会長の開会点鐘に始まり、ワイズソング、浅野メンの聖句朗読と続き、今月から食事なしとなり、さっそく議事に入りました。

濱会長から2頁にまとめられた資料を基に22-23年度活動報告を以下のようにされました。会長主題を『みんなで考えよう!』とし、足元を見直し、楽しく親睦ができ、若い人も参加したくなるような合同例会など例会の在り方を考え、例会の開始時間はそのままに、例会時間を30分短縮し、閉会時間厳守で効率の良い例会運営を目指し、神戸YMCA他団体で活動されているゲストをお招きし、その団体の活動を学びつつ例会内容の充実をはかりました。



続いて仮決算報告と次期予算案の説明が濱崎会計よりあり、前者は7月例会で承認予定、後者は承認されました。また浅野次期会長からは、クラブ活動方針・役割分担・年間予定表が提示され、詳細は第二例会で詰めることとなりました。



今月の誕生日は、浅野恭子・岡田晴美各メネット、各メンが代理で祝福されました。ワイズニュース・YMCAニュースと続き、濱会長最後の閉会点鐘となりました。1年間お疲れ様でした。

参加は浅野、石井、岩田、岡田、小野、阪根、重村、濱、濱崎、廣瀬、藤原、万本、森川、山口、山本の各メン15名。

第26回西日本区大会

山口 吉郎

6月10日(土)-11日(日)に熊本で開催された標記大会に濱会長、小野、廣瀬、山口、山本各メンおよび廣瀬敦子メネット6名で参加しました。会場は、熊本城ホールおよびホテル日航熊本。大会詳細については、理事通信を参照願います。なお西宮クラブの表彰は次のとおりです。

- YMCA サービス優秀クラブ賞
- FF 献金ベスト10 第4位
- BF 献金100%達成賞



福島第一原子力発電所 を見学して

浅野 純一

先日(令和5年)6月13日(月)、福島第一原子力発電所を見学しました。私は産経新聞購読者の会員登録をしており、その会員向けの案内に原発見学があり参加しました。定員20名で18名が参加、参加者の多くは首都圏からですが、わかる範囲ですが関西からの私、その他沖縄、新潟から参加された方がいました。

東日本大震災から12年3か月経過し、いま原子炉の廃炉に向けての作業が進められています。廃炉には1日平均で約4,500名が携わっているとのことですが、廃炉が終了するのは30~40年先の予定のことです。途方もない大作業で、いかに原発事故が大変なことであるかがわかりました。

東京電力では廃炉への理解を得るために福島県民の方々の発電所見学を積極的に受け入れています。また全国の人々の見学も歓迎するとのこと。なお、発電所見学を企画している旅行社・マスメディアは産経以外にはないとのこと。

発電所の見学の前日の6月12日(日)午後、JR常磐線いわき駅前からチャーターバスで「いわき震災伝承みらい館」(いわき市薄磯3丁目)を訪問し地元被災者のお話を聞き、また展示資料をみました。次いで浪江町(まち)、富岡町、大熊町など被災地を巡りました。帰還困難区域は現在では第一原子力発電所周辺の一部地域に狭められてきました(ほぼ名古屋市とほぼ同じ面積で福島県の約2%)。その地は年間積算線量が50ミリシーベルト(以下、Sv)を超える地域です。Svは放射線が人体に影響を与える影響の大きさを表す単位で、バスで巡った被災地の道路脇に線量計が設置されていますが、数値は2ミリSv程度で、これは我々の住む地域とほとんど変わりありません。

13日(月)午前10時前に原子力発電所に入りました。東京電力からの話を聞いてから、マイクロバスで約1時間余り構内を見学しました。事故を起こした1~4号機前でバスから降り、その前に立った時は何か大きな感情がこみ上げてきました。その地の数値は約20Svです。なお、津波は14~15mの高さに達したのですが、5・6号機、また第二原子

力発電所は標高が10~15mのところであり津波被害は軽微であったとのこと。

1~3号機はメルトダウン(炉心溶融)を起しました(4号機は定期点検で停止中でした)。そして漏れ出した水素が充満して1・3号機及び4号機の建屋(たてや)の上半分が爆発しました。いまも爆発した痕跡が残っています。

1・3号機でベントを行いました。ベントとは格納容器内の圧力を下げるために蒸気を外に逃がす作業ですが、放射性物質が外部に漏れる危険性をともないますが仕方のないことです。ところが、2号機はベントに失敗し、原子炉破壊の恐れが生じました。しかし、原子炉破壊は免れました。なぜ免れたかは私にはわかりませんが幸運なことでした。吉田所長(当時故人)は東日本壊滅が頭を過ったと、後日の報告書に記しています。2号機の原子炉破壊が起きれば旧ソ連で起きたチェルノブイリ原発事故(1986年6月)と同じようなことになっており、まさに日本の危機でした。私はチェルノブイリの事故がソ連の解体を導いたと思っています。当時のソ連ゴルバチョフ政権は事故に対処するために情報公開(グラスノスチ)に踏み切ざるを得なかったと思うからです。

話は元に戻りますが、廃炉に向けて次に取り組みなければならぬのが燃料デブリ(溶けて固まった燃料)の取り出しです。遠隔操作のロボットアームで取り出そうと調査中とのこと。そして、いまでも燃料デブリから熱が発しており、それを冷やす冷却水は高度の放射性物質を含んでいます(汚染水)。汚染水は規制基準以下に処理されタンクに貯蔵されていますが、すでに事故発生以来つくられたタンクは1,000に及び限界に達しています。処理水を海に放流することを菅(すが)政権で決めたのですが、風評被害を恐れる地元の漁業関係者などが反対しています。汚染水にはトリチウムが含まれますが、それは水として存在しているのでろ過できず完全には除去できません。トリチウムは一定期間で平衡状態に達し人体への影響は微小です。そして海洋放出しようとする汚染処理水のトリチウム量はIAEA(国際原子力機関)の示した基準値以下です。

東電はひたすら低姿勢で、事故を起こしてしまっ

担当主事 森川 俊介

先月中旬から一気に暑く、梅雨もあいまって蒸し蒸しとした暑さで体に負担のある毎日ですが、皆様お変わりありませんでしょうか。

いよいよ 7 月末からは夏休みに入ります。この夏は、用海・浜脇・香櫨園の3つの育成センターで480名近い子どもたちが、8:00から17:00まで(延長保育利用児童は19:00まで)過ごすこととなります。長時間の保育に加えて、感染症対策を行いながら熱中症にも留意しなければならず、支援員の負担は大きくなります。一人ひとりが健康に留意し、お互いに支え合いながら、一度しかないこの夏を、子どもたちと共に過ごしていけるようお祈りください。

1. YMCA 大会

6月24日(土)神戸YMCA三宮会館において神戸YMCA大会が開催されました。今年は現地に120名の方々が集ってくださり、オンラインでも約10名の方々がご参加くださいました。神戸YMCA大会は、神戸YMCAに関わる方々が一堂に会する日として、世代を超えて語り合い、楽しく喜びが溢れる一日となることを願い、2019年度から開催しています。

1年の歩みを確かめ、未来に向けて、YMCAが何をすべきか、何ができるかを語りあうことが出来ました。これらのことを携え、この1年、歩んで参りたいと思います。



2. 食料支援とグッズドライブ

6月25日(日)西宮YMCAの地域でひとり親家庭の支援をされているNPO法人alittleによるひとり親家庭困窮家庭向け食糧支援とグッズドライブ

たことを謝罪します。処理水の海への放流に関して韓国が反対していますが、韓国の原発から日本海に放流される水に含まれるトリチウムの量は福島原発からのそれより多いのではとの質問にも、他の機関のことに関することへの言及は控えたいとのことでした。

現代文明は電気で成り立っています。ウクライナ戦争によって化石燃料が高騰し電気代は大きく値上がりしています。また自然エネルギーの活用がいわれませんが、供給が安定しない、或いはむしろ環境を破壊するなどの問題を抱えています。

原子力発電は核燃料廃棄物の処理、またテロ攻撃の標的になるなどの問題を抱えています。一方で、二酸化炭素を排出しないクリーンな側面があり、コストも比較的安価(異論があります)の長所があります。また、日本は原子力産業において最先端を行っています。今回の見学を通して、廃炉という異例で困難な取り組みをしている方々に敬意を持つとともに、いかに核をコントロールできるのかを考えていきたいと思ひます。



爆発した1号機建屋



1号機の建屋の撤去作業を見学

が西宮ランチ A 教室で行われました。フードバンク関西や COOP などから集まったパンやお米、お菓子などを事前に申請のあった 20 家庭の保護者やお子さんが取りに来られていました。また、子ども服や玩具、絵本などは必要なものを持ち帰っていました。あたたかく迎えるスタッフの皆さんとのやりとりで、みなさん笑顔で帰っていかれました。今回は団体が新しい事務所へうつるまでの「場所」の提供でしたが、これからも西宮 YMCA が地域のニーズに応えることができる「場所」であり続けたいと感じました。



そこで、①YMCA に入会したが、テニスクラブはなかったので、まずはボールの小さい卓球クラブに入って、テニスクラブの立上げを狙っていた。その流れでキャンプリーター、少年部リーダーになった。②この友人の伯母さんが、S 学会の幹部で友人宅を訪問する度に執拗な勧誘に閉口していた。そこに二宮少年部担当主事から現在の教会に誘われて洗礼を受けることになった。その流れで山本メンからのお誘いでワイズにも参加することになった。その流れはこの聖句にも共通することになったものです。

編集後記

ブリテン委員 山口 吉郎

★芦屋クラブの 6 月例会に参加しました。大岩メンがオーナーとなられた三宮の Starting Over でのジャズ例会を楽しみました。店名はジョン・レノンの名曲と同じで、会長を三年務められた大岩メンの再出発に掛けた気がしました。★濱会長から浅野新会長にバトンタッチ。この 1 年が“楽しく充実した活動”となるように、よろしくお願いたします。★たまねぎファンドがメンバー全員の販売力で早くも完売となりました。ファンド委員の皆様お疲れ様でした。★浅野会長の福島原発見学、興味深く読ませていただきました。また東北方面に行ってみたいものです。

ワイズニュース

【今後の予定】

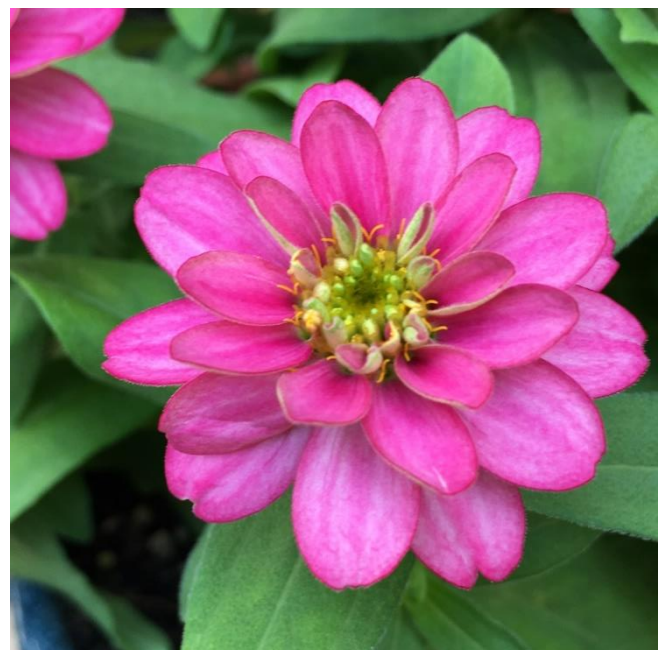
- 7 月 14 日(金) 第一例会
- 7 月 15 日(土) 第一回評議会 3 時～ 三宮会館
- 7 月 22 日(土) 山口徹さんお別れ会 2 時～
神戸栄光教会
- 7 月 28 日(金) 第二例会
- 8 月 5 日(土) 六甲部合同納涼例会(第一例会)

聖句に寄せて

小野 勅紘

私が YMCA に入って、ワイズの仲間になったのもこの様子がそのまま当たると思われるので挙げました。私は高校時代の友人が YMCA で空手を習っていて、その腕を試したくてウズウズしていた。そこで理由は分からないが、ある在校生と決闘することになり、その立会人を務めることになった。

その縁でその友人から YMCA に誘われたが、私はテニスをやっていて空手をやる意思はなかった。



ジニアプロフェュージョン百日草